

びと  
「とやま人」になる！

富山らしいシンプルで広がりのあるオープンスペースをつくり、  
自然と歴史の積み重なりを感じられる魅力的な空間に、  
人々が集まり交流する。

まちとひとがつながり、そこから生まれる新たな価値を、  
これからの富山の方にする。

## ■ 3つのありたい姿の実現に向けたコンセプト

### 富山らしい「のびやかな水辺と緑」のオープンスペースをつくる

- 神通川旧河道の記憶と噴水を継承する水盤を旧河道の軸線に沿って整備し、県庁前公園の新たなシンボルとします。
- ゆったりと広がる芝生広場とプロムナードを整備し、住む人、働く人や訪れる人の憩いと愉しみの空間とします。
- 災害時には防災拠点施設集積エリアにおける、救助・救援活動スペース、避難スペースとして利用します。

### 県庁舎本館を貫く「歴史－未来軸」で、駅周辺と総曲輪をつなぐ

- 県庁舎本館の1・2階中央通路は通り抜けられるようにして、県庁前公園と富山城跡をつなぐ歩行者中心軸とします。
- 富山駅からの動線、国際通り・総曲輪からの各動線が県庁舎を貫く歩行者軸線「歴史－未来軸」でつながり、2つのエリアに分かれている駅周辺と旧市街地とをシームレスに連続させます。
- 富山城～県庁の軸線上に大屋根ひろばを配置して、富山の歴史・文化の積み重ねを未来に継承します。

### 気軽に立ち寄れる「とやまベース」に県内外の多彩な「とやま人」たちがあつまる

- エリア一体は魅力的な富山を構想・実現するための拠点「とやまベース」と位置付け、オープンスペースに面して気軽に立ち寄れる大屋根ひろばでは、富山の魅力を知り、体験して、人々の交流と活動が活発に行われます。
- エリアマネジメント組織を中心に、富山に住む人、働く人、富山を訪れた人、富山に関心がある人など、県内外、海外からの多彩な「とやま人（びと）」たちが集まり交流することで、新しい富山を生み出すきっかけの場となります。
- 生み出された価値は、県内の様々な地場産業の振興、新たな産業創出につながり、富山をさらに活性化していきます。

## ■ まちの価値を高める3つのインフラネットワーク

### 市街地のグリーンインフラとなる水辺と緑のネットワーク

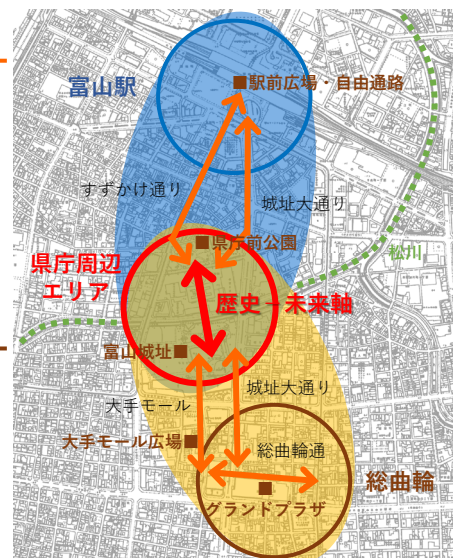
- 富山城址・県庁前公園～松川～富岩運河環水公園・神通川に至る水辺と緑のネットワークにおいて、富山城址・県庁前公園は、都心部のまとまった水辺・緑として重要です。
- 生物多様性と地域の生態系に配慮した緑化を行うことで、市街地全体がネイチャーポジティブなまちになります。

### 富山駅と総曲輪をつなぐ歩行者ネットワーク

- 駅周辺地区と商店街地区が旧河道の対岸に位置して距離があったという歴史的背景があり、2つの地区は路面電車で環状につながりましたが、歩行者動線のつながりは弱いです。
- 2つの地区をつなぐ県庁周辺エリアに歩行者中心軸を設定し、わかりやすい動線を確保することで、歩行者ネットワークがつながり、歩いて楽しいウォークャブルなまちになります。

### 賑わいと憩いのオープンスペースネットワーク

- 富山駅自由通路・駅前広場、グランドプラザなどイベントができる賑わいのある広場はありますが、心地よく憩えるオープンスペースは中心市街地にありません。
- 閉鎖的な県庁前公園をまちに開き、居心地のよい空間とすることで、日常的に人が集まるプレイスメイキングなまちになります。

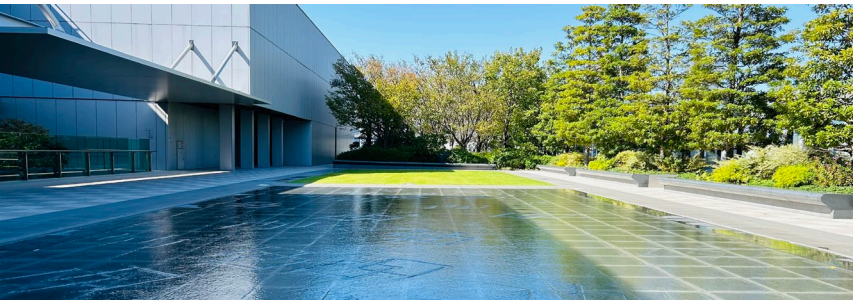




## 人に優しい空間デザイン

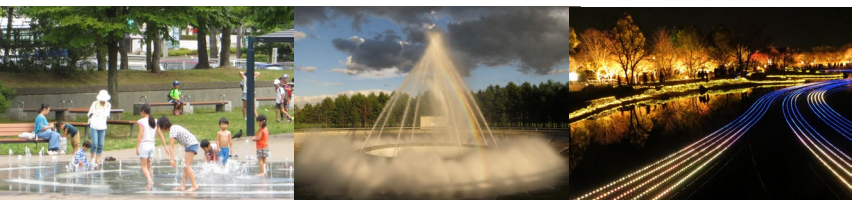
### 水盤と芝生が広がるオープンスペース

- 都心の中で貴重な広がりのある空間を確保し、ゆったりとした居心地のよい場所をつくります。
- 富山ならではの透明度の高い地下水を利用した水盤で美しい水景をつくります。
- 空の映り込み、夜景、雪景色など、水盤は季節や天候、時間で表情を変えて、訪れる人を飽きさせません。印象的な空間は昼夜を問わず新たな観光名所となります。



水盤と芝生・並木のイメージ（上）

様々な表情を見せる水盤（下）



### 歴史－未来軸と直交するプロムナード

- プロムナードは、公共交通の電停やバス停からのアプローチとなります。歴史－未来軸と直交するわかりやすい空間構成と歩きやすい歩行者動線で周辺のまちをつなぎます。

### 県庁ひろばを人中心の利用に開放

- 現在車寄せと駐車場となっている本庁舎前は、イベントや憩いのスペースなど人が利用するひろばとして開放します。
- 駐車場は南東側に集約立体化して、必要台数を確保します。

### 水辺と歴史の風景を望む松川さくらテラス

- 県庁南別館を建て替え、四季折々の松川と富山城を眺められるテラス建築とします。城址公園や総曲輪エリアから訪れる人々を県庁・大屋根ひろばに迎え入れる玄関口になります。

### 居場所をつくる移動式空間やファニチャー

- 広場に「移動式空間」を配置します。店舗や休憩スペース、図書コーナー等に利用でき、季節や天候に応じて快適な場所に移動して、居心地のよい場をつくります。
- テーブルやベンチなどをフレキシブルに配置して、季節や利用目的に応じて利用者が積極的に居心地の良い場所を選んで、滞在できるようにします。

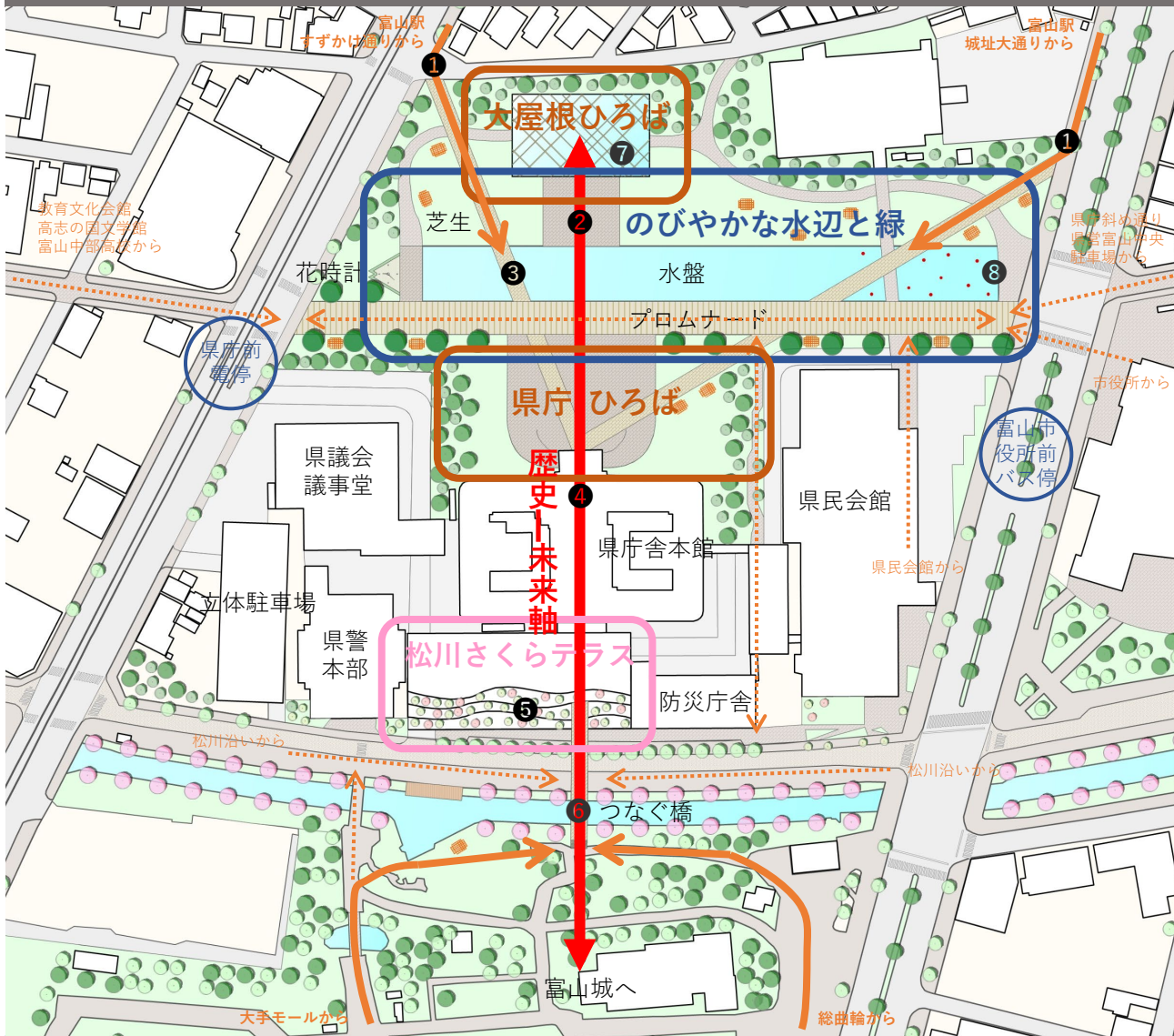
広場に賑わいをつくる移動式空間

居心地の良い場所をつくるファニチャー



### 富山の新たな魅力となるシンボリックな夜景

県庁本庁舎やプロムナードの並木のライトアップ、イルミネーション、ナイトマーケットなどにより夜の新たな魅力を創出して、観光客や仕事帰りの人々が集まる場所となります。

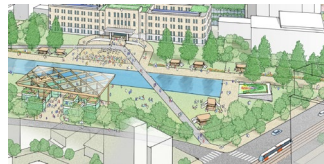


### 環境装置となる水盤と緑

- 夏の卓越風は水盤と緑で冷やされ、吹き抜けのある県庁舎に涼風が流れ込み、パッシブクーリングの効果をもたらします。
- 地下水位の変動を知らせる環境オブジェは、富山の大切な地下水保全に対する市民の環境意識に働きかけます。
- 植栽地や建物緑化は多様な樹種構成として、都心部の生物多様性の向上、地下水と雨水の涵養に寄与します。

## 富山らしい視点をつくる

### 視点場① 通りから県庁本庁舎を見せる



駅からの歩行者動線となる城址大通りやすずかけ通りから県庁本庁舎への見通しを確保する通路をつくり、本庁舎をまちから見える化します。

### 視点場② 県庁本庁舎が水盤に映り込む



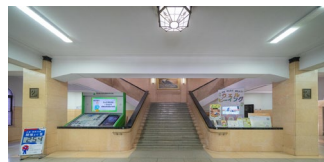
県庁本庁舎と並木道のライトアップが水盤に映り込んで、シンボリックな夜景を演出します。

### 視点場③ 水盤と並木のプロムナードを見通す



電停やバス停からの歩行者動線となるプロムナードは、旧河道の記憶を再生する水盤と並木で迎え入れます。

### 視点場④ 歴史的建造物の県庁本庁舎に触れる



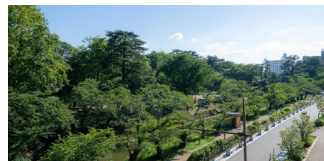
本庁舎内を通り抜けられるようにして、文化遺産の歴史的建築内部を見られるようにします。

### 視点場⑤ 松川さくらテラスから富山城を眺める



県庁南別館を建て替えて、松川沿いを雑壇の緑豊かなテラスにします。富山城や松川を眺められる居心地の良い空間となります。

### 視点場⑥ つなぐ橋から松川を見下ろす



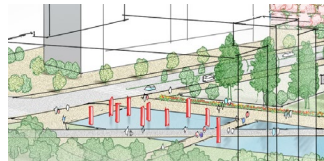
県庁と富山城をつなぐブリッジをつくり、松川を見下ろす水辺の憩いの空間にします。

### 視点場⑦ 大屋根から県庁舎と立山連峰を望む

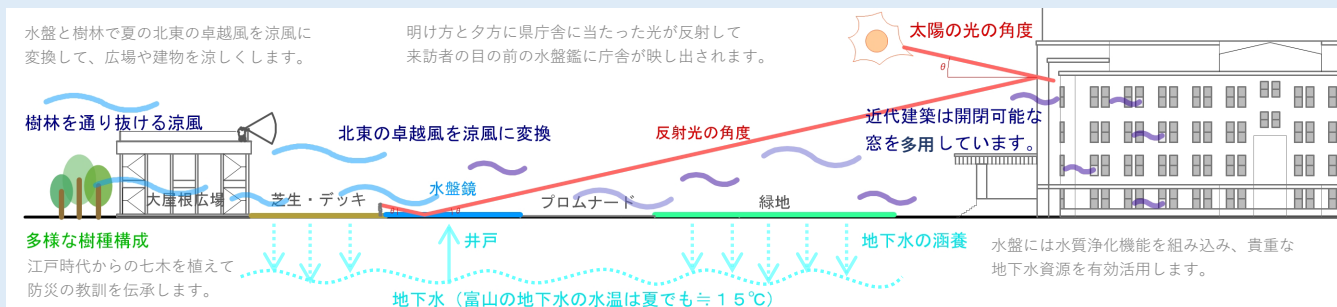


大屋根ひろば屋上に上がると、県庁舎・市庁舎と立山連峰を望むことができ、立山連峰の魅力を新しい視点で発見できます。

### 視点場⑧ 地下水位の上下を知らせる環境オブジェ



人や車からよく見える城址大通り側の水盤に、地下水位の季節変動に合わせて上下して地下水位の変動を知らせる環境オブジェを設置します。





とやま人を育む「とやまベース」

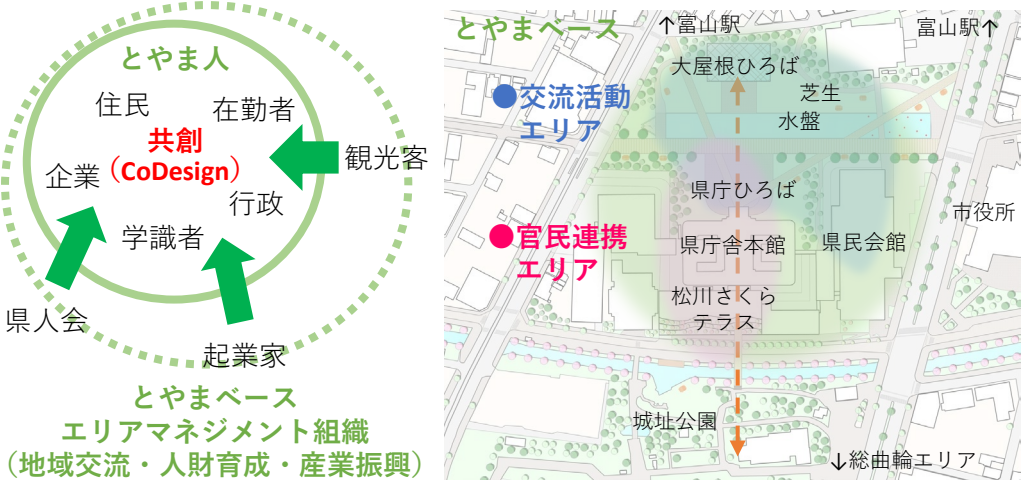
魅力的な富山を構想・実現するための拠点

富山がホームベース・ホームタウンの人と、県内外の富山の愛県家が集い、より魅力的な富山を構想・実現するための拠点「とやまベース」。

とやまベースが富山の持続的な発展の主人公となる「とやま人」を育みます。

人が集まりやすく情報発信しやすい立地特性を生かす

- 県庁・市役所などの行政機能が集積し、住民も来県者もサポートが受けやすい環境が整っています。
- 富山駅と総曲輪エリアから、徒歩や路面電車を利用して集まりやすい場所でもあります。
- 富山城・城址公園に近接し、総曲輪のガラス美術館や富山駅北の県立美術館等の新しい観光スポットの中間地点で、観光客の来訪が期待できます。
- 県民会館では、住民の発表会などのイベントが多く開催され、住民が集まるエリアとしてのポテンシャルもあります。
- 周辺には報道機関の集積もあり情報発信の拠点として適しています。



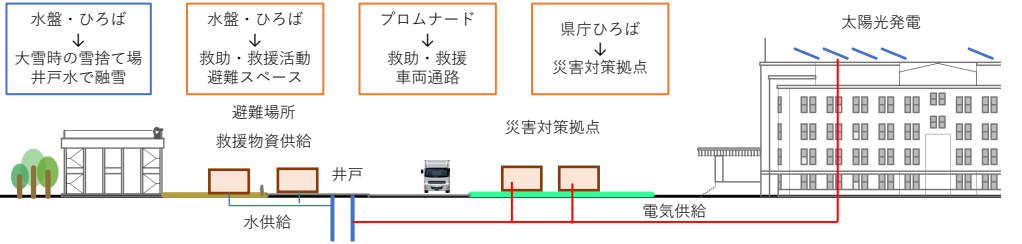
とやま人が集まり・繋がり・育つエリアマネジメント組織

- 「富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会」を母体として、集まり・繋がり・育つとやま人たちをつなぐエリアマネジメント組織を立ち上げます。
- 地域交流、人財育成、産業振興を主な活動方針として、共創（CoDesign）により富山の地域力を高めていきます。
- とやまベースで起こる様々なアクティビティやビジネスを広く情報発信して、さらなる富山の発展につなげていきます。

防災拠点機能と日常利用の両立（フェイズフリーの空間利用）

防災庁舎や県警本部などと一体的に防災拠点となる広場

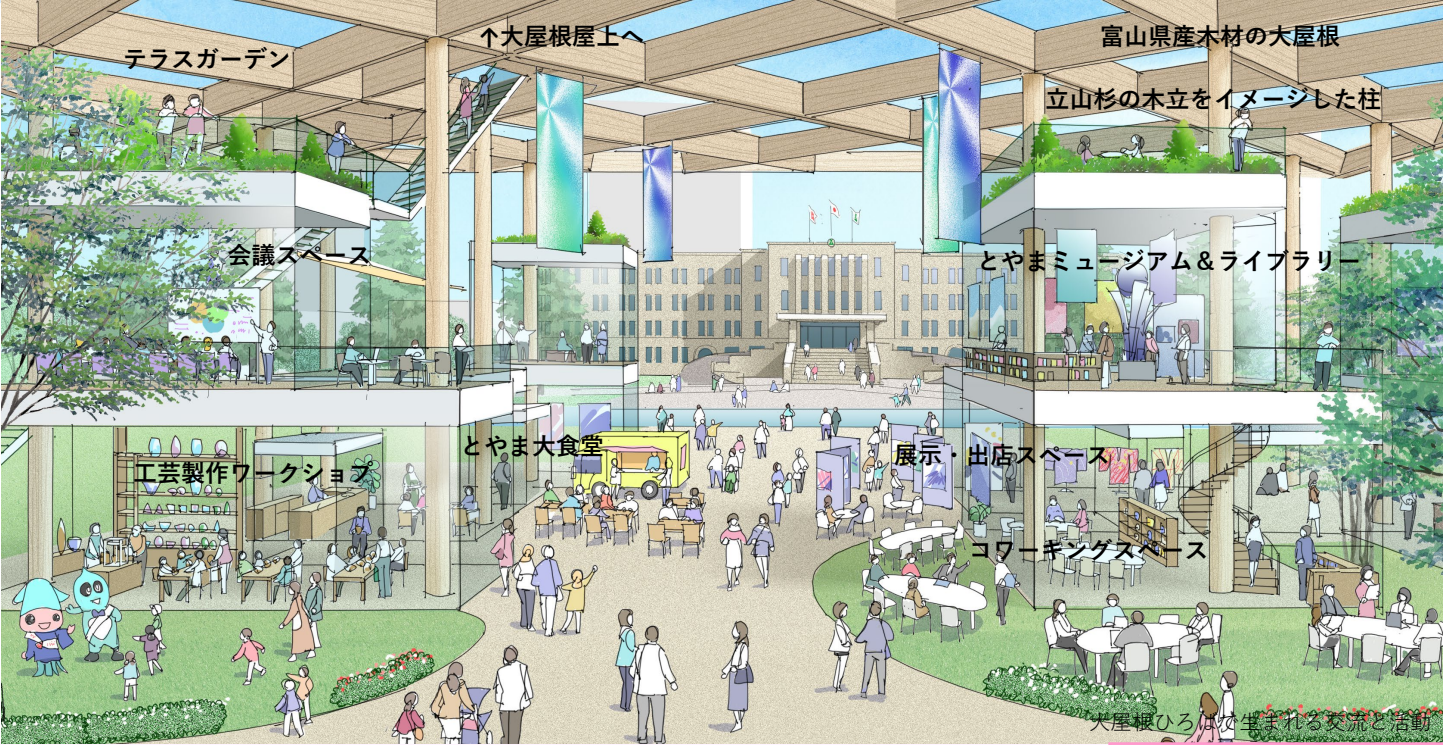
- 日常は市民の憩いやゆしみの場である広場は、災害時は防災拠点における救助・救援活動スペース、避難スペースとして利用できます。
- 水盤は水を止めて、広場空間として利用し、水盤用井戸は太陽光発電による防災井戸として、災害時の飲用水、トイレ等に利用します。
- 大雪時には、広場や水盤を雪捨て場として利用し、井戸水で融雪します。



2つのエリアで新しい富山の価値が生まれる

●交流活動エリアーとやま人たちが集まるひらかれた共創の場

広々とした芝生と一体の大屋根ひろばでは、人々が思い思いに過ごすだけでなく、住民が趣味の活動をとにも楽しむ場、コワーキングスペースでビジネス交流が発生する場、住民や観光客が企業・起業家と共創することで新しいビジネスの種を発見するインキュベーションの場となります。



●官民連携エリアー持続的な発展をめざした起業・協業の場

県庁舎本館と松川さくらテラスがある官民連携エリアでは、交流活動エリアで生まれたビジネスの種を持続的に発展させるために起業や協業を支援する場となります。

ワンストップのビジネスサポート機能

県庁舎本館の1・2階を中心に、県の担当部署・市内に分散している各支援機構が入居し、ビジネスに欠かせない人財情報や、補助金・助成金等の資金に関する情報が得られます。事業化に必要な支援が一か所で受けられます。

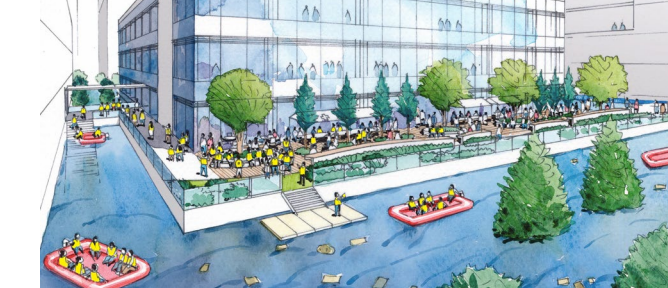
官民連携ビジネス拠点

松川さくらテラスには、起業や協業から発展したスタートアップ企業等が入居し、官民連携のビジネス拠点として富山の持続的な発展に貢献します。

とやまミュージアム&ライブラリーとの連携や、歴史ある富山城を眺めて仕事をするオフィスは、富山への愛着を高め、持続的に人と事業を富山に根付かせます。

浸水深に応じて接岸可能な大屋根ひろばと松川さくらテラス

- このエリアは洪水時に3m～5mの浸水深が予測されています。
- 大屋根ひろばや松川さくらテラスの建物は、外階段やテラスを設置して、浸水深に応じて、救助ボートが接岸できるようにして、水害時の建物の孤立を防ぎ防災拠点としての機能をできるだけ維持します。



水害時に、救助ボートが接岸できるテラス

大屋根ひろばは厳しい暑さ寒さをしのぐシェルターの役割を担い、県産木材を活用した富山ならではの新しいスポットになります。富山の魅力である水景、県庁舎が水盤に映り込む姿とともに、新しい風景の中でのクリエイティブなアクティビティに「とやま人」を実感します。

大屋根ひろばの交流活動機能

新旧の富山の魅力に触れる

- 格式ある伝統工芸品から、住民や観光客のアイデアを取り込んだ現代的に進化した作品まで、新旧の富山の魅力に触れることができます。

アクティビティを誘発する

- 富山の食を体験したり、工芸の製作体験や作品・製品展示など、人々の様々なアクティビティが生まれます。

CoDesignでビジネスの種を見つける

- コワーキングスペースでは観光客、住民、学生が普段から気軽に訪れて起業家や企業など交流・共創（CoDesign）し、富山をより魅力的にするビジネスの種を見つけます。

ビジネスの種を育てる仕組み

種を見つける「じゃまない会議」

交流活動エリアを拠点に、学生・住民・移住希望者・観光客・起業家等が参加

県内外の問題・課題抽出

芽が出る「やんばいバンク」

人材活躍推進センター、シニア専門人材バンク、新世紀産業機構、創業支援センター等が県庁舎の空部屋に入居

集約・連携強化で事業化を応援

育つ姿も魅せる「ちゃべちゃイベント」

とやま人が集まる発表の場

事業化途中で、来街者の生の声を聴き商品にフィードバック

移動式空間を防災施設として活用

- 平常時には広場内の店舗や休憩施設として利用する移動式空間は、災害時には避難場所や救援物資供給場所として利用できます。
- 太陽光発電と蓄電池を搭載して、非常用電源として活用します。

